

OECD 教育研究革新センター編著、立田慶裕・平沢安政監訳「学習の本質―研究の活用から実践へ―」
明石書店 2013 年 3 月 27 日刊を読む

学習は、時間と努力を必要とする

1. (1) 複雑な知識構造を構築するには、生徒たちにとっても教師たちにとっても、長期間のハードワークが必要となる。

(2) 結果として、問題解決の実践とその人の知識基盤の拡大に投入される時間と努力が、学習の成功に影響を与える最も重要な要因である。
2. (1) 自ら専門家と宣言する人の中には、もっと楽しく、脳に適した内容で、コンピュータに基づいた授業を行えば、あるいは人生の早期にそうした教育をすれば、相当な時間と努力の投入をしなくても、生徒たちは有能になると主張する人もいる。

(2) こうした主張はすべて、実証的な研究結果によって正当化されていない。

(3) その主な方法は、適切なタイミングで適量で行われれば、ある程度まで学習を支援できる。

(4) しかしながら、その方法のどれもが、複雑な知識構造の獲得にかわるものとはならないし、知識の獲得が実際に起こることを保証しない。

(5) こうした方法が学習を刺激する程度によっては、学習過程が一般的にそうであるように、やはり達成が難しく、時間のかかるものなのである。

(6) 学習は面白くできるしそうあるべきである。しかし、その種の面白さは山に登る楽しさであって、頂点に座って景色を楽しむ面白さではない。

P99

[コメント]

PISA(15 歳時の国際的な学習到達度に関する調査)を実施する OECD(経済協力開発機構)の学習の本質に関する本格的な研究成果を、国立教育政策研究所の立田先生グループが翻訳した本書は、学習指導に関心があり、また、携わるすべての人にとり、極めて有用。是非、御一読を。

— 2014 年 10 月 8 日 林 明夫記 —